

■会議録

| | |
|----------|---|
| 会 議 | 令和4年度 第3回 社会教育委員会議 |
| 開催日時 | 令和5年3月16日(木) 15時00分から16時50分 |
| 開催場所 | 有帆地域交流センター 会議室・研修室 |
| 出席者 | <p>山陽小野田市社会教育委員12名 東原秀一委員、香川真澄委員、河崎知治委員、榎崎八由美委員、富永恵美子委員、長谷川義明委員、大本章男委員、平中政明委員、野村誠委員、半矢幸子委員、能勢俊勝委員、吉本光良委員</p> <p>事務局5名 藤山教育部長、舩林社会教育課長、安藤係長、柿並係長、縄田主事、</p> <p>事例発表者1名 有帆地域交流センター：山本センター長</p> |
| 会議次第及び結果 | <p>1 委員長あいさつ</p> <p>2 報告</p> <p>(1) 第75回優良公民館表彰受賞（文部科学大臣表彰）について 【有帆地域交流センター】 ○全国優良公民館表彰についての説明（事務局より） ・全国公民館連合会による選考方法や選定内容、評価内容、今年度の山口県からの同賞受賞館の報告</p> <p>(2) 有帆地域交流センターの取組紹介（有帆地域交流センター山本センター長より） ○具体的な取り組みの紹介 ・有帆地域交流センターの立地、有帆地域の高齢化率、歴史的・文化的遺産の紹介 ・3つの取組事例 ① 小学校との合同学習フェスタ ② 地域交流センター・地域情報のPR（ふるさと通信ありほ《広報誌》） ③ まなビト・ふれ愛カフェ（企画委員とともに実施する全員参加型の主催講座） ・今後の課題、展望について</p> <p>以下、委員からの主な質問及び回答 ・広報誌やふれ愛カフェの編集委員・企画委員はどのような方なのか。 （有帆地域交流センター長）センターで募集しお願いしている。概ねそれぞれ5名～6名程度</p> <p>・企画・編集委員ともにセンターだより等で募集しているのか。 （有帆地域交流センター長）募集はするものの、現状集まらないので直接お声掛けをしている。</p> <p>3 協議 『社会教育推進の指針について』 ○令和5年度社会教育推進の指針（案）について協議した。 ・公民館のセンター化に伴い令和4年度は大幅に変更したため、令和5年度は追加等の変更点についてのみ説明をした。</p> <p>以下、主な質問及び回答 ・PTAの参加を促すとあるが、具体的な方策はあるのか。 （社会教育課）令和5年度の具体的な手立てまで検討できていないが、厚陽PTAによる家庭教育支援、センター来所者の若者層の獲得など、保護者世代の重要性が増していることもあり記載している。具体的なお知恵があればご教示いただきたい。 ※上記の質問について他の委員より ・地域・学校連携カリキュラムについて保護者に関しても記載する。地域だけでなく保護者の参画も学校から働きかける必要がある。</p> |

- ・保護者にとって、魅力的なものとするべきである。校区の行事も保護者の参加があるものあれば、ないものもある。事業の魅力化が必須である。
- ・社会教育主事講習の令和5年度予定はどうなっているか。
(社会教育課) 社会教育課から1名、市民活動推進課から1名行政職員が受講予定となっている。教員については希望があれば参加できることとなっている。
- ・放課後子ども教室については、小野田高校カルタ部、サビエル高校留学生の参加等教育委員会の協力も得て実施することができた。また、交流センタークラブの協力もあり、地域の特色を活かしながら実施している。
- ・センター化については、本会議において提言書を4本の柱を中心に作成した。1年を振り返りそのあたりの検証を行っていくのが本会議の役割である。また、社会教育委員に何ができるのか。そのあたりの協議を進めるべきである。
- ・公民館から地域交流センターへと名称は変更されたが、何ら変わったことはない。検証の前に、私たち社会教育委員の位置付け、役割とは。
- ※上記の質問について他の委員(地域交流センター長)より
- ・毎月のセンター長会議の度に、社会教育課、市民活動推進課より事業内容等について指導をいただいている。ホームページやインターネット活用などを通じ、若者層の獲得等に努めなければならないと考えている。
- ・地域運営組織が令和5年度の準備期間を経て、令和6年度から実施されると聞いている。教育委員会と市長部局とで綿密に連携を取り、進めておくこと。
- ・地域交流センターとなり、営業等が可能となったがセンター主催事業において何か変化はあったのか。
- ※上記の質問について他の委員(地域交流センター長ほか)より
- ・ヤクルト(企業)と一緒に講座を実施した。また、防災講座等での物品の販売、また講師の先生の本の販売等が可能となる。センター祭りでのフリーマーケットの実施等もした。
- ・今後センター運営に本社会教育委員がどのように関わっていくかを検討するため、来年度以降、運営組織を含めたセンターの方向性についての説明をお願いしたい。

4 その他

- ・令和6年度以降の天文館、プラネタリウムのその後について本会議において説明がなされていない。どうなるのか。
(社会教育課) プラネタリウムの機器については、未来技術遺産として登録され、それを受け、コニカミノルタへの引き渡す方向で話を進めている。今後は東京でメンテナンスをしながら展示される予定となっている。
- ・プラネタリウム、青年の家に置いている文化財等、もっと社会教育員会議で検討、検証すべきではないか、すべきではなかったのか。

5 社会教育課長あいさつ